

弘前工業高校 北畠聡美

私にとってこの研修は毎日が新鮮で、普通の高校生活では体験し得ないことを見聞することができました。今まではエネルギーや発電について考えることは少なく、供給源や発電方法等の知識しかありませんでした。しかし福島第一原発の事故があって以来、いったい原子力とはどのようなもので、なぜ反対する人が多いのかと考えるようになりました。こういった疑問を自分の目で見て解決したい、違う高校の友達を作り自分の考えを広げたいというのが参加理由でした。

そして色々な発電所や施設を見学した中で特にすごいと思ったところが4つあります。

1つ目は高速増殖炉もんじゅです。ここでは3Dで概要を見たり、ナトリウムの実験をしたりしました。0.7パーセントしか含まれていないウラン235を使う原発に対し、残りの約99パーセントのウラン238を使うもんじゅは資源を有効活用できるし、高レベル放射性廃棄物を通常より少ない期間で安全にできるので画期的だなと思いました。しかし水ではなくナトリウムを使っているのが原発以上に細かく安全対策をしなければならない施設だなと感じました。

2つ目は三菱重工です。よく三菱重工という名前は聞いたことがあり、そこに見学に行けるということで楽しみでした。神戸造船所は100年以上歴史があり、潜水艦や原子力プラントだけでなくメトロや国際宇宙ステーションに乗せる実験装置も制作していました。そういった設備は人間よりもはるかに大きいのでどのように作っているか疑問でした。国際熱核融合実験炉（ITER）の中に使われているラジアルプレートは高さ14メートルもあるため組み合わせるとき1ミリもズレが生じないようにする精密さや技術力の高さがすごいと思いました。

3つ目は北九州市の環境への取り組みです。昔公害があったため、元のきれいな空や海を取り戻そうと必死に努力した結果が今の北九州に現れていると感じました。単にきれいになったから良いというわけではなく、環境モデル都市として行っている取り組みを国内やアジアにも展開していることを知り、すごいと思いました。これからは電力会社を選べるので北九州のように行政と企業と消費者が一体となって環境改善に取り組んでいく必要があると思います。

4つ目はフランス大使館です。フランスは小さいころから興味があったので、実際にフランス語で説明してくれたことがとてもうれしかったです。そこではパリ協定の内容やフランスがとっている対策を、通訳を通して学びまし

た。すべての国が温室効果ガスの排出削減に取り組み、その内容を報告するというものや、それぞれの国で基準とした日から気温上昇を2度未満にするというものでした。国同士の政治的問題もありますが、環境問題に対しては国と国とが協力して取り組んでいかなければならない地球的課題だと思います。

9日間、発電所や施設を見学・訪問することで気が付いたことがあります。それは、今自分たちが使うエネルギーが本当にたくさんの人の協力や努力があって作られているということです。日常生活の中では当たり前のように電気を使っていますが、実際に見学することで電気の有難さを知り節電に取り組んで大切にしようと思いました。また、海外のように日本でも小さい時からエネルギーについて教育を受けるシステムを積極的に導入していくことが必要だと思いました。

海外へは行けませんでした。国内エネルギーとして研修を実現させ、サポートし続けてくれた方々、一緒に楽しい思い出を作ってくれた仲間には感謝しています。きっとこの体験はこれからの人生で忘れることはないと思います。

本当にありがとうございました。